

序 文

「アラスカへの道」は、関西大学探検部技術研究会の創立より 11 年に至る登山の記録である。この記録の末章は 10 周年を記念して派遣した、アラスカ遠征隊の報告書をもって終っている。

技術研究会は一クラブの中の一パートであり、OB と現役を含めても、会員数は僅か 25 名というミニグループである。

私達は未踏の山地を探ることを目的としてきた。積雪期における知床半島硫黄岳や屋久島永田岳北尾根等は、この意図に沿ったものであったし、アラスカの Mt. SENRI もまた同じである。

日本の登山界より見れば、私達のアラスカは、その高さと技術水準において日本最低の初登頂であろうと思う。隊員達の帰国談を聞いても、10 年間を振りかえって見ても、苦難に遭遇し生命を斗いとった話は少ない。

たゞ一つ、私達に誇れるものがあるとすれば、この 10 年間 17 年の年代層を越えて、お互いに良い山仲間を持ちえたことであろう。

歳月は余りにも早く去ってしまったが、忘却の彼方へ解き放つには、余りにも惜しい 10 年であった。それ故「アラスカへの道」は自ずから開かれ、私達の青春の結晶となったのである。

さいごに、会の運営に当り数々の御助言をいただいた紫岳会の阿部知行氏をはじめ、諸先輩に心より御礼申上げる次第です。

1972 月 4 月

技術研究会 小 野 龍 弼